

# 月刊 アカサス ニュース

第35号 1999(平成11年).5

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

## ようこそ，金沢大学へ！ 平成11年度入学宣誓式を挙行

トップニュース Top News



宣誓後，固く握手を交わす岡田学長と大学院入学者代表の井田克住さん(社会環境科学研究科)  
= 4月7日，医学部十全講堂で



告辞を述べる岡田学長  
= 同上，石川厚生年金会館(金沢市出羽町)大ホールで



新入生を代表して宣誓する荒木さん(経済学部)  
= 同上

4月7日，石川厚生年金会館で，「平成11年度入学宣誓式」が行われ，学部・専攻科・別科の新入生計1,968人が新たなスタートを切った。

式では，岡田晃学長が「人間は何をすべきか考え，粘りと努力で学問，研究に立ち向かってほしい」と激励し，それにこたえて新入生を代表して荒木謙一さん(経済学部)が「規則を守り，学生としての本分を尽くします」と宣誓した。

また，同日，別会場で，大学院(新入生776人)の“入学式”も行われた。



今年は会場の都合で，大ホールに入りきれずモニターで式に参列する新入生  
= 同上，芙蓉の間で





## 巻頭言

何故いま大学評価が  
必要なのか  
- その方法論をめぐって



学長補佐（研究・環境担当）  
（がん研究所長）  
磨 伊 正 義

いま我が国の大学は大きい変革の時期を迎えつつあり、その中で求められているのは、大学や研究所における機関評価である。なぜいま大学評価が必要なのか。それにはいくつかの理由があげられる。その一つは、アカウンタビリティ（説明責任）である。国からの大学への公的資金の投資は年々増加しており、大学がその教育、研究機能をどのように充実させ、どのような成果を挙げているのかを社会に示さない限り国庫からの支援を増やすことはできないだろう。最近我が国においても経済成長が鈍化しており、大学への負担は決して軽視できない状況にある。したがって大学は自らを評価し、その結果を社会に示すこと、これが説明責任である。もう一つは個々の大学が設定した目標に向かって不断の自己点検を行い、必要な場合には新しい方向への転換、改革を推進しなければならない。平成3年に大学審議会から自己点検・自己評価についての提言がなされ、これまで各大学、研

究機関で関係者の予想を遙かに上回るスピードで各大学で評価が行われ、それなりの成果をあげてきた。しかしこうした評価方法にも評価者の選定や予算的裏付け（これまでは評価者のボランティアでなされてきた）などいくつかの問題を残してきた。確かに透明かつ客観的評価を行うには大学や研究所とは独立した第三者機関による評価が必要とは言うまでもない。しかし、第三者評価を行うに当たっては相当の予算が必要である。今後政府が第三者評価を行うには、研究費を数%別枠で確保した上で、外国で見られるような第三者評価機関、組織を作成し、専門職による厳正な評価を行うように期待したい。この第三者評価機関の構成メンバーには国際的・学術的な視野を有する人材を登用する。さらには、評価支援体制（評価者に係る直接経費の確保、専門的人材、評価指標の確立など）の整備が必要なのは論を待たない。

## 附属図書館が変わった！

### 新電算機システムお披露目

4月6日、附属図書館の業務用電算機新システムの披露式が、岡田晃学長等の出席のもと盛大に催され、貸出業務等の実演が行われた。

この新システムでは、書誌検索において学内データベースと文部省学術情報センターのシームレスな検索が実現され、OPAC（蔵書検索）はインターネットによる学外からの利用も可能となっている。これにより利用サービスが一段と向上し、利用者数のさらなる増大が期待される。



貸出・OPAC蔵書検索等の実演の様子  
= 4月6日、附属図書館で

### 利用者用玄関を自動ドア化

このほど、附属図書館の北側玄関が自動ドアに改修され、車椅子の使用はもちろん、両手に本などの荷物を持ったままでも、出入口の通行ができるようになった。図書館では、これまで利用者玄関のスロープ取付けなどバリアフリー化を進めており、今後とも資料の充実と併せて、施設面の改善にも鋭意努めていく予定。



## 教育実践総合センター始動 “メディア社会”、“心の教育”に対応

平成11年度から教育学部附属の“教育実践研究指導センター”が“教育実践総合センター”として新たに発足し、4月7日、同センター開所式が催された。

関係者約40人が出席する中、同センター玄関前では岡田学長等によって表示板の除幕が行われ、出席者全員でセンターの開所を祝った。

なお新センターは、「教育実践部門」と「教育臨床部門」の2部門で構成されており、“メディア社会”、“心の教育”に係る社会的要請にこたえるため、今後大いに期待されている。



「教育実践総合センター」表示板を除幕する関係者(左から順に) 中村厚生事務局長、岡田晃学長、金子勲榮教育学部長、吉田貞介教育実践総合センター長  
= 4月7日、同センター玄関前で

## 「脳のふしぎ 君も英語が話せる？」 外国語教育研究センターで特別講演会

4月13日、外国語教育研究センターは、元浜松医科大学教授の植村研一氏を招いて「脳のふしぎ 君も英語が話せる？」と題した特別講演会を開催した。

植村氏は、まず“脳のどの部分でどんな記憶が保持されるのか、いかに記憶は呼び出されるのか”といった脳の組織や機能を分かりやすく解説し、さらに外国語を習得するにはこの脳のしくみをどう活用したらよいか、自身の経験を交えて語り、学生を含めた言語教育に関心を持つ多くの参加者は興味深く聴講した。



講演の模様  
= 同右



参加者と交流が楽しい  
= 4月13日、総合教育棟で





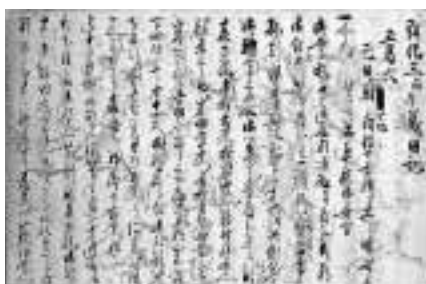
## 創立50周年関連行事続々と！ 5月29日から貴重な資料等を一般公開

このほど、評論家の立花隆氏を招いて行われる創立50周年記念特別講演会の詳細が決定した。日時は5月30日午後2時からで、場所は金沢市文化ホール（金沢市高岡町）。

また5月29日から6月11日にかけて、創立50周年記念展示が資料館（角間）等で行われる。本学が前身校から継承した貴重書類、写真パネル「金沢大学の歩み」及び2050年にタイムスリップするCGアニメーション等が公開予定。更に医学部記念館内に設置されている資料展示室は、創立50周年記念事業の一環として、設置以来初めて一般公開される。医学部130年の歩みを肌で感じ取れる充実した内容でこちらの公開は5月29日から3日間。



貴重な医学資料がたくさん展示されている医学部記念館内の資料展示室の様様



加賀藩史研究上、第一級の史料である「成瀬正居日記」（創立50周年記念展示）



このたびで上がった創立50周年記念特別講演を知らせるポスター

## 学長補佐体制がスタート

今年度から学長補佐（4人）体制と全学的各種委員会の見直しによる新しい委員会体制がスタートし、4月22日に第1回目の基幹委員会（総務企画委員会、研究・環境委員会、学術情報委員会、教育委員会）等がそれぞれ開催された。

## 学生寮へいらっしゃ～い 新入寮生の歓迎夕食会が開かれる

4月6日夜、北湊寮と白梅寮で新入寮生の歓迎夕食会が催された。

先輩寮生の手厚い歓迎は、寮生活で寮にも慣れ始めた新入寮生をさらにリラックスさせ、大いに盛り上がり、これからスタートする先輩や大勢の同輩との楽しく、有意義な寮生活を連想させた。



グループで出しものの歌を歌う新入寮生  
＝4月6日、白梅寮で

## 今年のフレッシュさん、お目見え 「新規採用者オリエンテーション」を実施

4月9日、事務局第3会議室で事務局新規採用者を対象に「新規採用者オリエンテーション」が実施され、今年は4名 男2名、女2名 が受講した。

講義では、本学の概要などが各担当部局の職員から説明され、続いて行われた施設見学では、大学の多岐にわたる仕事に受講者は目を丸くしながらも興味深く見入っていた。



カルテの整理作業を見学する受講者  
＝4月9日、医学部附属病院病歴室で





## 産学連携の掛け橋に 共同研究センターが MEX金沢'99に出展

4月15日から4日間、日本海側最大規模の機械工業見本市(MEX金沢'99)が、石川県産業展示館で開催され、本学共同研究センターは、科学技術相談や共同研究の成果のデモンストレーションを行った。また、今回は新たに平成5～9年度における本学の共同研究の成果をまとめた「研究成果報告集」も紹介するなど、訪れた企業にはすこぶる好評であった。企業のリピーターも年々増加しており、ここ数年の共同研究センターによる継続参加は着実に産学連携の掛け橋となりつつあり、今後の努力に期待するところが大きい。



科学技術相談にこたえる後藤裕助教授(共同研究センター)と  
= 4月17日、石川県産業展示館1号館(金沢市袋島南)で

## 国際交流の第一歩!

### 留学生センター 第8期 日本語研修コースを開講

4月12日、外国人留学生のための“日本語研修コース開講式”が行われ、受講生15名と関係者が一同に会した。同コースは、半年の間に日本語を集中的に学ぶコースで、本学を含めた北陸地区の6大学の大学院へ進学を予定している外国人留学生を対象としている。

### 平成11年度 語学要員養成研修を開講

4月28日、事務局大会議室で“語学研修”の開講式が行われ、受講者計22名が自己紹介とともに豊富を語った。

受講者のレベルに応じて様々なコースが設けられているこの研修では、国際化に対応した職員の語学力の向上と語学に対する意識の高まりが期待される。



受講者の方々  
= 4月28日、事務局大会議室で



開講に当たってあいさつする指導教官の片山信一教授(北陸先端科学技術大学院大学)  
= 4月12日、事務局第4会議室で

## 本学へのお客さま(4月)



レーゲンスブルク大学(ドイツ)副学長御夫妻(右から2、3人目)  
= 4月19日、学長室で



## 加藤佳幸さん(医学研究科1年) 商社マンから医師へ華麗に転身

商社マンとして活躍中、夢だった“医師への道”を捨てきれず、一念発起して会社を退社し、現在、本学医学研究科1年の加藤佳幸さんは、このたびめでたく医師国家試験に合格し、いよいよ夢を形にする。

「軌道に乗っていた仕事を辞めても、そこで得たものを活かせばさらに広い視野で患者さんと接することができる」との信念がこのたびの合格につながったようだ。



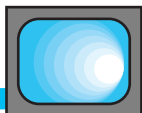
患者さんと同じ目線で、対話のできる医師になりたいと話す加藤さん  
= 4月26日、医学部記念館で

## 駐車厳禁! 立て看板設置 閑静な教育環境を確保

新入生等による総合教育棟(南棟)玄関前などへの車やバイクでの乗り入れ・違法駐車が増加し、業者・救急車両等が入れない状態が続いていた。そこで立て看板を同玄関前に続くアプローチの入口に立てたところ、侵入してくる車が激減し、違法駐車も減少した。現在、静かな教育・研究環境が取り戻され、教官・学生に好評を得ている。



“車両進入禁止”を告げる看板  
= 4月30日、総合教育棟玄関前アプローチ入口で



**KUPIS** (キューピーズ) **情報**

金沢大学ホームページ

本学「公式ホームページ」の面白い情報を紹介するコーナーです。

(「その5」は第20号に掲載した。)

その6

創立50周年

クリック順

トップページ

創立50周年

いよいよ間近に迫った本学創立50周年に関する様々な情報を掲載し、関連行事の盛り上げに一役かっている。トップページ真ん中の、既におなじみとなった創立50周年のシンボルマークから入ることができる。

「50年史の刊行」、「50周年記念展示」、「特別講演」、「国際シンポジウム」などについてはもちろん、「50年史編集室」のページには、編集室編集の「ニュース・レター」も掲載されており、本学50周年の歩みが写真・資料を交えていろいろな切り口で語られている。

アドレスは <http://kanazawa-u.ac.jp>



「創立50周年」の第1画面







## 春の叙勲受章の方々( 本学関係分 )

4月29日、平成11年度春の叙勲受章者が発表され、本学関係では、次の6名の方々が栄えある叙勲を受章した。



勲二等瑞宝章  
山本 譲 氏  
(名誉教授、  
元薬学部長)



勲三等旭日中綬章  
小竹宏志 氏  
(名誉教授、  
元理学部教授)



勲三等旭日中綬章  
石橋 遼造 氏  
(名誉教授、  
元工学部教授)



勲三等旭日中綬章  
隅田 弘 氏  
(名誉教授、  
元工学部教授)



勲六等単光旭日章  
松平正道 氏  
(元医学部附属病院  
副診療放射線技師長)



勲七等青色桐葉章  
清水 歩 氏  
(元医学部附属病院  
調理師長)

平成11年度

## 大学教育開放センター公開講座

～地域とともにあなたの生きがいのある人生を支援します～

受講資格は特にありません。  
どなたでも受講できます。

宇宙と素粒子	11. 6. 2～ 7.14, 全7回	定員50名
「フィレンツェ・美の謎空間」の解明	11. 6.17～ 7.22, 全6回	定員50名
セロトニンを合成しよう	11. 6.26～ 7.17, 全4回	定員 6名
老年期作業療法～超高齢社会の対応とりハビリテーション～	11. 8.11～ 9.29, 全7回	定員50名
感染と看護	11.10.20～ 12. 8, 全7回	定員50名
「がん」という病気	12. 1.12～ 2.23, 全7回	定員50名
子どもと教育を考える講座	12. 1.13～ 2.17, 全6回	定員50名
ネオ・金沢文化学	12. 2. 5～ 3.11, 全6回	定員50名

### 申込み・問い合わせ先

金沢大学  
大学教育開放センター

TEL : ( 264-5272～3 )  
E-mail :  
kaihou@ad.kanazawa-u.ac.jp

### 訂正

第34号( 1999.4 )に次の誤りがありました。おわびして訂正します。

	( 誤 )	( 正 )
4ページ上段 写真解説文中	システム作成者の西嶋愉一助教授	矢淵孝良教授
7ページ上段 文 章 中	もり あつみ 森 厚文	もり ひろみ 森 厚文

### 編集後記

冬の雪景色から一転、若葉の緑がこんなにも素晴らしいものかと思う北陸・金沢の春、角間の5月。心躍る季節の到来とを感じる日々である。

今号は、春の恒例の入学式を中心に、11年度の各事業のスタートのニュースである。

先の学校教育法等一部改正法案によると、いわゆる秋季入学も可能となるようだ。入学式は春の恒例、といつまでも言っていられない。私どもも自らの意識を改革する必要がある。

先日、統合移転 期工事の角間地区の造成工事現場を見学する機会に恵まれた。事務局棟の眼前にあった小高い丘陵が、見る見るうちに削られて、造成工事が進められている。

トラックの車輪が自分の背丈ほどもあり、その大きさに驚かされながら、大規模な工事に改めて驚いている。

思えば一年前に起工式を行ったものであり、着々と進む工事が無事竣工を迎えられるよう、安全を祈念したい。

( 吉田 )



## ぴかぴかの1年生 ♪



## THE DORAKU ①

山菜採り

山生まれ山育ちの私は、物心ついたころから野山を歩いていた。そして、当然のように山菜を採るようになった。春には、ゼンマイ・ワラビ・カタハ・スダケ(小さなタケノコ)を……。秋には、ジネンジョ(山芋)キノコを収穫しては、少しだけ食し、多くは知人に配り、喜んでもらっている。

何年もの経験を重ねると、いろいろなことを考える。春はゼンマイを探しながらジネンジョの枯れた蔓の位置を、秋はジネンジョを掘りながら枯れたゼンマイやワラビがないかを見る。山を歩きながら、半年後の山歩きに夢を馳せるのが楽しい。逆に、最近は年々山菜が減ったり衰弱したりしているのが分かり、寂しく思ったりもする。

私は、この自然の恵みがいつまでも絶えないように願っている。そして、釣りのリリースにならって、小さな山菜は採らないようにし、また大きなものでも根こそぎ採ることをしない。私と地球の健康維持のために、いつまでも豊かな野山がそこにあってほしい。

田畑繁之(医学部)



ゼンマイ収穫の様子

このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成11年5月21日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019  
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キュービーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。